

科目名	運動器障害理学療法学特論	担当教員	小林 巧 小林 匠 野陳 佳織 神成 透 角瀬 邦晃 ※印は実務経験のある教員を示す。
-----	--------------	------	--

開講専攻	分野	種別	配当年次	開講時期	単位数	授業形態
理学療法学専攻	専門科目	選択	4年次	後期	2単位	講義
ナンバリングコード	卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連					
HR41DE	②、③					

科目概要	筋・骨関節系に関わる人体構造機能学や「運動学」などの“基礎医学”、“理学療法評価学”、“運動器障害理学療法学”、“運動器障害理学療法学演習Ⅰ、Ⅱ”などの理学療法治療学にて得られた知識・技術と、「臨床実習」にて得られた経験を統合し、運動器疾患に対する理学療法が行えるようになるための発展的な学習を目的とする。運動器疾患に関わる理学療法士として臨床現場で働くだけでなく、地域社会に貢献するために必要な専門知識と問題解決能力を養うことを目標とする。
学習目標	運動器疾患に関わる理学療法士として臨床現場で働くだけでなく、地域社会に貢献するために必要な専門知識と問題解決能力を身につける。

回	項目	主な学習内容	到達目標	実務経験 教員担当 項目
1	肩関節 1	肩関節疾患の病態と理学療法評価	代表的な肩関節疾患の病態を理解し、適切な理学療法評価を実施できる。	
2	肩関節 2	肩関節疾患の理学療法	代表的な肩関節疾患に対する理学療法プログラムを立案、実施できる。	
3	肘・手関節 1	肘・手関節疾患の病態と理学療法評価	代表的な肘・手関節疾患の病態を理解し、適切な理学療法評価を実施できる。	
4	肘・手関節 2	肘・手関節疾患の理学療法	代表的な肘・手関節疾患に対する理学療法プログラムを立案、実施できる。	
5	脊柱 1	脊柱疾患の病態と理学療法評価	代表的な脊柱疾患の病態を理解し、適切な理学療法評価を実施できる。	
6	脊柱 2	脊柱疾患の理学療法	代表的な脊柱疾患に対する理学療法プログラムを立案、実施できる。	
7	股関節 1	股関節疾患の病態と理学療法評価	代表的な股関節疾患の病態を理解し、適切な理学療法評価を実施できる。	
8	股関節 2	股関節疾患の理学療法	代表的な股関節疾患に対する理学療法プログラムを立案、実施できる。	
9	膝関節 1	膝関節疾患の病態と理学療法評価	代表的な膝関節疾患の病態を理解し、適切な理学療法評価を実施できる。	
10	膝関節 2	膝関節疾患の理学療法	代表的な膝関節疾患に対する理学療法プログラムを立案、実施できる。	
11	足部・足関節 1	足部・足関節疾患の病態と理学療法評価	代表的な足部・足関節疾患の病態を理解し、適切な理学療法評価を実施できる。	
12	足部・足関節 2	足部・足関節疾患の理学療法	代表的な足部・足関節疾患に対する理学療法プログラムを立案、実施できる。	

13	スポーツ傷害 1	上肢スポーツ外傷・障害の理学療法評価・治療	代表的な上肢のスポーツ外傷・障害に対する理学療法プログラムを立案、実施できる。	
14	スポーツ傷害 2	脊柱スポーツ外傷・障害の理学療法評価・治療	代表的な脊柱のスポーツ外傷・障害に対する理学療法プログラムを立案、実施できる。	
15	スポーツ傷害 3	下肢スポーツ外傷・障害の理学療法評価・治療	代表的な下肢のスポーツ外傷・障害に対する理学療法プログラムを立案、実施できる。	
評価方法		筆記試験（80%）・講義に対する姿勢（20%）		
課題に対するフィードバック		1 授業をとおしてフィードバックする。 2 講義中・講義終了後に質問を受け、回答する。 3 筆記試験、レポート課題の解説は、オフィスアワーの時間帯で対応する。		
教科図書		細田多穂・監『運動器障害理学療法学テキスト 改訂第2版』南江堂、2016年		
参考図書		整形外科リハビリテーション学会・編『関節機能解剖学に基づく 整形外科運動療法ナビゲーション 下肢』メジカルビュー社、2014年 整形外科リハビリテーション学会・編『関節機能解剖学に基づく 整形外科運動療法ナビゲーション 上肢・体幹』メジカルビュー社、2014年		
学習の準備		1（予習）運動器傷害基礎論、運動器障害理学療法学、運動器障害理学療法学演習Ⅰの内容を確認する（90分）。 2（復習）講義の理解できた箇所、理解が不十分である箇所を明確にしておき、不十分である箇所は次の講義で質問できるよう準備をする（90分）。		
オフィスアワー		月曜日 13時~14時半、その他在室時はいつでも可能		
担当教員欄に※印を附した教員の実務経験				